

No.520

2021年7月

すなはま かいがら
砂浜の貝殻はどこからやってくる？

すなはま あしもと め む
砂浜で足元に目を向けると、いろいろな貝殻が打ち上っていることに気が付きます。
とく うみ あ あと はま たか いち かいがら おびょう あつ
特に海が荒れた後には浜の高い位置に貝殻が帯状に集まっていることがあります。こ
かいがら
の貝殻はいったいどこからやってきたのでしょうか。

とやま すなはま いちばんおお み
富山の砂浜で一番多く見つかるのはヒメカノコアサリという1cm弱の二枚貝です。小
さくて目立ちませんが、波打ち際が白く縁取られるようにたくさん打ち上っていること
め だ にもう ぎわ しろ ふちど
もありです。波打ち際が白く縁取られるようにたくさん打ち上っていること
もありません。マツヤマワスレという、殻につやのあるきれいな二枚貝もよく見かけます。
たくさん見つかる貝殻の多くは砂地の浅い海底にすんでいる貝で、砂浜のすぐ近くから
なみ ちから はこ
波の力によって運ばれてきたものです。このほかにもカキやイガイの仲間など、岩場に
すんでいる貝が目につくこともあります。岩場が近くでない場所でも、コンクリートで
できた護岸や離岸堤があると、本来岩場にすむ貝が打ち上がります。

すなはま み かいがら ちか うみ かい
砂浜で見つかる貝殻は近くの海にすんでいる貝だけではありません。巻貝のような貝
がら つく なかま にほん とお みなみ あた た うみ
殻を作るアオイガイはタコの仲間で、日本からは遠い南の暖かい海にすんでいます。
かいりゅう の はこ あき ふゆ にほん かい えんが ん う あ たいふう
海流に乗って運ばれ、秋から冬にかけて日本海沿岸に打ち上がります。台風シーズン
や田植えの時期には、カワニナなど川から流されてきた淡水の貝やカタツムリのような
りくじょう かい み うみ かい しよくよう ひと す かいがら
陸上にすむ貝もよく見かけます。また、海の貝でも食用となるものは人が捨てた貝殻
も混ぜることがあります。

すなはま かいがら しゅるい きせつ へんか み
砂浜の貝殻の種類や季節の変化を見ていると、目の前の海の様子だけでなく、大きな
かいりゅう うご りく ようす ひと かつどう み
海流の動きや陸の様子、人の活動までもが見えてきます。 (吉岡 翼)



パカガイ



ヒメカノコアサリ



ヘソアキクボガイ



ムラサキイガイ



ツメタガイ

すなじ かいてい
砂地の海底
にすむ貝



マツヤマワスレ



カモガイ



イワガイ

いわば
岩場に
すむ貝



オオタニシ



カワニナ

たんすい かい
淡水にすむ貝



アオイガイ

かいりゅう なが
海流に流されてくる貝

すなはま み
砂浜で見つかるいろいろな貝殻

大きさが分かるように、
1cmの棒を並べています

こんげつ
今月のかぐのギモン：シーグラス（砂浜で磨かれたガラス片）は富山で拾えますか？
こた
（答えは当館ホームページを見てください）